

障がいある人や、ひきこもり不登校の人たちとの明るい社会をつくるために

わんぱく学園ニュース

令和元年 10月・11月号

No.198

季節は夏から秋へ

草丈は30センチを超えるキク科——寒さに負けずつやのある葉を茂らせ、”つわぶき“がなまって島根の津和野の語源にもなったとか。岩の間からも美しい黄色い花・・・そう・・・つわぶきの花が咲く頃——。

つわぶきの 石(意思)の強さに 我重ね

花ことばは「困難にめげず克服する」

44年もの間、私は「真の福祉」とは何か？と活動続けてきました。いろいろありました。途中で投げ出したくなることもありました。でも障がいある人にとって一体何が必要なのか？親亡き後どう託せばいいのか——やっとな実を結び始めつつあるように。

このつわぶきのように、寒さや苦難に満ちた季節の変わり目に岩の間から鮮やかな花を咲かせ色が失せる季節にあやどりを添える——そんな花に私を重ねてみました。

～土江 和世～

〈アーカイブ その4〉

天国からの手紙 飯塚 真澄

わんぱく学園創設者：土江 和世

(生前の飯塚先生との思い、会話のやりとりから勝手ながら 天国からの手紙として記してみました。文章の中で出てくる「お姉さん」とは私土江和世のこと、飯塚真澄先生は私のことをお姉さんと呼んでいました。)

♪皆さん 大変ご無沙汰しております。

数年前から僕は天国の人となりました。懐かしい学園だより思い出を語りましょう。

“風が冷たさを残していく日 僕はいつものように宍道湖湖畔にあるレストランで「わんぱく学園」の1年の予定についての役員会に出席しました。レストランに入った左手に畳の部屋がありました。

窓の外には宍道湖が輝いていました。でも僕の心は憂鬱な気持ちで沈みがちでした。それはこの年の初春からずっと続いている力ない咳のせいでした。その時は単なる春風邪かと。でもどの風邪薬もききません。風が去っていてもそこに残るものがないのです。

もしや まさか——ふっとよぎる不安がだんだん現実になっていった時の会合でした。

賑やかな笑い声「真澄ちゃん 久しぶり！」と掛け合う仲間、そして沈みがちな僕にお姉さんが声をかけてくれました。

「どうしたの？咳をしているけど・・・」今は亡き兄貴分「稔」さんもない・・・敷き詰められた座布団が余計むなしくみえました。

学校という法に縛られた組織、稔兄が中心になり手をつなぐ育成会の皆さんと考え出した自由なわんぱく学園の間で揺れる僕がいました。この1年をどう過ごすか？どんな問題があるか話題は尽きません。でも私には全てがうつろでした。

何を食べたか？どんな意見交換ができたか？全てはよどみに消えていきました。

役員会の帰り、お姉さんが心配そうに宍道湖畔のレストランの駐車場に。その勧めでもあったし、僕自身も明日にでも・・・と同じ考えであったから 僕の同級生の医者である“園山医院”に翌日向かいました。

穏やかな人柄の先生に見てもらうことで、きっと笑い話になるかと。でも不安は的中しました。友の穏やかな目が真剣に厳しい目に変わっていきました。

「どうして真澄君、ここまでほっといたんだ？大きな病院で至急見てもらったら」と僕は不安に駆られ、お姉さんに電話をし、「園山医院に来て欲しい」と。

家族にどのように旨を伝えればいいのか？わからなくなったので、急ぎ駆けつけてくれたお姉さんに医者からの言葉を伝えました。並べました。待合室をどう出たか覚えていません。過ぎ去る景色 それもあとわずか——「今の小学校に勤められなければ僕にはわんぱく学園があったんだ！」そんな思いを巡らせながら県立中央病院に。

その2日後 見舞いに来たお姉さん

丸坊主になった僕に「真澄ちゃん 似合うじゃない・・・」と気をまぎらかそうとする懸命なお姉さんがいました。

「悔しい・・・残念だ・・・」天井の一点を見つめながら、見舞いに来たお姉さんにわずかに言葉にできたのは短い言葉でした。先に逝った稔兄と向こうでわんぱく学園の続きをするかな・・・

過ぎ去りし日々日記のページをめくりながら、

今手掛けている「わんぱく学園」に夢を重ねていました。

まだ若い僕、この地でやりたいことがたくさんあった、教育の世界で頂点までいき、これからと思っていた・・・悔しい 本当に悔しい・・・無言にならざるを得ない時の流れ、運命として受けざるを得ない僕の人生一体何だったんだろう・・・

僕の願い、それはずっとわんぱく学園続けてほしいな・・・

だってこれほど自由でのびのびした学園なんてないからね！

この学園で出会ったみなさん ありがとう。

つわぶきの花



■ 10月&11月の「わんぱく学園」のメニュー

だれでも参加OK！ 出席もとらないからいつでも一人でもお友だち一緒でも大歓迎！

月 日	内 容	会費	担当
10月6日(日)	□粘土遊び 粘土こねこね遊び！ 集合場所：アトリエ「おちらと」	100円	土江和世
10月13日(日)	□国際チャレンジドアートエキスポインジャパン見に行こう ～エクアドルカフェ飲みながらで名画鑑賞！～ 場所：ビッグハート出雲 担当：NPO法人サポートセンターどりーむ職員一同	100円	
10月20日(日)	□秋の夜長カフェ ～アトリエ「おちらと」に集合、おちらと畑でお茶を～ 集合場所：アトリエ「おちらと」	100円	曾田秀憲
10月27日(日)	□ちゃんこ鍋作ろう！ 秋だ！食欲の秋、やっぱりちゃんこ鍋が最高！ お家に野菜ある人は持って来てね 集合場所：アトリエ「おちらと」	100円	坂根玄明
11月3日(日)	□秋の味覚の旅「落ち葉拾い」 ～美しい野山、集めた落ち葉でアートあそび～ 場所：アトリエ「おちらと」から近隣の野山へ	100円	土江和世
11月10日(日)	□無人駅の清掃 ～お世話になっている一畑電車、その無人駅をきれいにして恩返し！～ 場所：雲州平田駅に集合 そこから無人駅へ 用意するもの。軍手 雑巾 など。学園でバケツ・ほうき等の清掃道具を準備します。	100円	廣野元志
11月17日(日)	□紅葉カフェ ～秋の愛宕山公園で散策して、お茶でも～ 集合場所：アトリエ「おちらと」から愛宕山公園へ	100円	常賀信寛
11月24日(日)	□ふるさと再発見 ～アトリエ「おちらと」から、車や徒歩で宍道湖畔まで ふるさと再発見～ 集合場所：アトリエ「おちらと」	100円	土江和世

*集合時間：9時50分 集合場所：指定の場所へ来てくださいね。

問い合わせ&発行元

〒691-0031 出雲市東福町156-1 NPO法人サポートセンターどりーむ

TEL & FAX : 0853-62-4872 メール : sc-dream-kt@sky.plala.or.jp

art-art@amail.plala.or.jp